

@MyLife vol.2

女性の活躍がなぜ必要なのか？

少子高齢化による将来的な労働人口の減少が懸念されています。働きたい人が性別に関係なく、能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現は、こういった懸念を解消していくことにつながるといわれています。そこで鍵となるのが「女性の活躍」です。

女性活躍推進によるメリット

- 1 勤務年数が長くなり、ノウハウが蓄積される
- 2 人材の確保がしやすい
- 3 多様な価値観や発想による商品開発やサービスにつながる

あま市人権推進課の取組

家事等実践講座



「男性のための料理教室」や「親子で日曜大工」など、性別役割分担意識を解消することを目的として様々な講座を行っています。

映画上映会



実話から生まれた女性活躍の物語やLGBTに関する映画の上映会を実施しています。

男女共同参画川柳

職場での花から柱になった母

(平成 28 年度作品)

男女共同参画に関する川柳を募集し、優秀作品を啓発品として活用しています。「あま市川柳作品」で検索してください。

各種セミナー・講座



各種セミナーや講座を開催しています。(平成 28 年度プチ起業セミナー、平成 29 年度「私の歩んだ道から子どもの貧困問題を考える」)

高校生と大人たち、あま市で暮らす市民記者が取材しました！

昨年に続き、情報誌の取材をして記事を書いたのは 8 人の市民記者のみなさん。五条高校、美和高校に通う高校生とあま市在住の大人たちがお話を聞きました。取材前にはプロの記者による講座も実施。市民のみなさんが素敵だと感じた等身大の声で作られた情報誌です。



家族から学ぶ職人の在り方

七宝焼職人の家系に生まれ、幼い頃からいつも七宝焼は身近にありました。あま市七宝町の職人が年々減り、七宝焼がなくなるかもしれない状況に危機感をおぼえ、職人になる決意をしました。技法は祖父、父、母から教わってきました。両親は既存の製作法や図柄にとらわれず、新しい作品に挑戦し続けている職人です。家族が示してくれる職人としての在り方に憧れを抱きながら、職人として修行を重ねています。

様々な仕事を経験してきた道のり

東京の大学を卒業した後、七宝焼職人になろうと決めるまでに、接客業、イベント運営など、いくつもの仕事を経験しました。歌手としてスカウトもされて、今も職人として作品を手掛けながら、ライブ活動を行なっています。知らない世界へ積極的に飛び込んで視野を広げてきたからこそ、将来の選択肢が広がりました。さらに、いろいろな人の考えを客観的に受け止められる柔軟さも身についたと思います。

七宝焼を広げていくために

良い物を作れば買ってもらえる時代とは違い、職人も積極的に情報を発信しなくては、作品の魅力を知ってもらえません。田村七宝工芸のホームページのリニューアル、SNS の活用など PR に力を入れています。若者も手にしやすい七宝焼ジュエリーも始めました。職人技のクオリティーはそのままに、今受け入れてもらえる七宝焼の形を模索しています。

【プロフィール】あま市の伝統工芸七宝焼の職人。田村七宝工芸四代目・田村丈雅の娘。独自の七宝焼ジュエリーブランドを立ち上げる。職人しながら歌手としても活動している。(田村七宝工芸 HP <http://tamura-shippo.com>)

撮影場所／あま市七宝焼アートヴィレッジ

市民記者／美和高校 安藤俊輝、久保優志、藤田紗矢

田村さんの元気のワンポイント

豊富な経験から七宝焼の新たな可能性を見つけていく

伝統を受け継ぐ若き職人

たむら ゆうき
田村有紀さん

市民記者のヒトコト

七宝焼や歌手にとどまらない多才な方だと思いました。田村さんのライブに行ってみたいです！



人とのつながりを大切に

よこやま りゅうこ
横山 龍子さん

障がい者スポーツをサポート

スポーツを通して障がい者の成長をお手伝いしています。障がい者スポーツに携わるきっかけは、「全盲の走る歌姫」として全国で活躍している上田若渚さんの伴走を依頼されたことでした。未経験の役割に少し不安もありましたが、一生懸命でまっすぐな姿に心を打たれ、自然と打ち解けていきました。彼女との交流で、改めて人との関わりや助け合いの大切さを学んだんです。もっと多くの人の背中を押したいと熱が高まり、サポート方法の勉強を続けています。

運動の楽しさを教える

子どもから高齢者まで、みんなが「スポーツは楽しい!」と感じられる場づくりをしています。走るのが好きな仲間が集まる「あまランナーズクラブ」を運営したり、小さな子向けの「キッズクラブ」で体を動かす面白さを伝えたりしています。上手下手を気にせず、遊ぶように運動するという感覚を知ってほしいと考えています。そんな活動でまちに楽しさを広げていきたいです。

世界記録を目指して!

今後の目標は、80歳で4人×400mのマイルリレーの世界記録を出すこと。2年前、怪我をした時に80代の現役ランナーの女性から「この歳まで走れる体をつくりなさい。80歳のランナーが4人揃えば世界記録を出せるわよ!」と言われました。焦らず無理せず、年齢に合うトレーニングをずっとスポーツを楽しみたい。いろいろな大会に参加すると、学生時代のライバルとの再会もあります。いくつになっても励まし合える仲間と走れるのも楽しみのひとつですね。30年先の目標を目指して、まだまだ走り続けます。

【プロフィール】中学時代から走ること一筋。陸上に打ち込み続けてきた。大学の体育科卒業後、小中学校で教員として勤務。現在、あま市内の小学校のスクールサポーターを務め、キッズクラブ指導者、あまランナーズクラブの運営など、幅広い世代に運動の楽しさを伝える活動に携わっている。

撮影場所/あま市七宝総合体育館
市民記者/五条高校 白井静穂、岡本そら、林香穂

横山さんの元気のワンポイント

80歳でマスターズ世界記録!大きな目標を胸に日々継続!

市民記者のヒトコト
とってもパワフルな横山さんと一緒ならスポーツがもっと楽しくなりそう。



きっかけは地域の方とのつながり

ある時、近所のひとり暮らしの尼僧様が病気になり、看病することになりました。介護をする中で、不慣れなこともあり腰を痛めて困っていると、JA海部東の方に「ヘルパーの資格を取らない?」とお話をいただきました。渡りに船とヘルパー2級を取得。その後、20年お世話をさせていただき、安らかに見送ることができました。こうした地域でのつながりからスタートした経験が私自身の勉強にもなり、ボランティア活動の原点となりました。

家族に支えられ広がった活動

高齢者サロンの運営、レクリエーションインストラクターなど、いろいろな活動をしてきました。最近は認知症への正しい理解を広めるため、認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトの活動で市内の中学校へ行き「みづえばあちゃん」として講師をしています。子どもからお年寄りまで様々な方とお話しする機会をつくっています。活動の幅が広がるにつれ、家庭との両立に悩んだ時期もありました。けれど、家族とは話し合っ理解してもらい、とくにずっと支えてくれた夫には感謝しています。

世代をこえて親しい関係を築けるまちに

子どもからお年寄りまで、三世代がひとつになれるまににしたい。高齢者サロンにやってきて「幸せだ」って言ってくれた方がいました。身近に集える場所があることの大切さを感じています。息子や娘が離れて暮らしていても、お父さんお母さんのことをご近所さんに「よろしくお願ひしますね」と気軽に頼めるようなお隣同士の付き合いがもっとあっていいと思うんです。少しお節なくらい関係性が生き生きした生活につながると信じています。

【プロフィール】「JA海部東なの花の会」「あまちゃんの会」など、主に高齢者の方を対象とした活動をいくつも運営している。民生・児童委員、生活支援コーディネーター、認知症キャラバンメイトなど、地域のつながりづくりに様々な形で関わっている。

撮影場所/コミュニティープラザ菟津
市民記者/奥村昌代、高木友子

多世代の交流でまちを元気に

わたなべ
渡邊 みづえさん

渡邊さんの元気のワンポイント

ボランティアがいつしか生きがいのひとつに

市民記者のヒトコト
常に明るく前向きで、「夫の理解が大きい」と語る言葉に温かさを感じました。

